

## <国際化にむけた船出>

趣意書の理念に基づき昭和48年4月に明徳中学校として船出した明徳義塾は、昭和51年4月に明徳義塾高等学校を開校、学校法人明徳義塾中・高等学校と改称し更に発展を続けて行くこととなります。

そして昭和53年8月、オーストラリア／バンバリー校と第1号の姉妹校提携をするなどいよいよ国際化に向けて舵を切ることとなります。

明徳義塾と言えばモンゴルからの留学生ダグア・ドルジ君、いや皆様には第68代横綱、朝青龍 明徳関と紹介した方がよいかもしれませんね。また、ブラジルからの留学生アレサンドロ君、彼は2002年と2006年のサッカーワールドカップ日本代表として活躍してくれた三都主アレサンドロ選手と紹介するのが良いでしょう。両名とも入学当時は体の線も細く、運動神経は良いもののヒヨロヒヨロとした体形でまさか日本を代表するアスリートになるとは夢にも思いませんでした。

ところで勉強よりもスポーツを優先しがちな留学生も入学と一緒に容赦なく明徳流の教育の洗礼を受けることとなります。

挨拶・掃除・身だしなみなどの指導はもちろん、朝夕礼での默想や詩吟体験など、授業での日本語教育だけではなくクラブ活動や寮での生活を通じて日本を学んで行くことになります。

さて、明徳義塾は他の帰国生受入校とは異なり、帰国子女受入に先立ち27年も前より留学生の受け入れをスタートさせていました。但し受け入れる生徒は姉妹校からの生徒かスポーツ留学生に限定されていました。



実は、明徳義塾が本格的に世界各国より留学生を受け入れる為の体制が整ったのは平成3年4月、第2言語として

### 高橋 聖（たかはし さとし）

明徳義塾中学校・高等学校 広報入試部長

何かの目標に向かって努力している生徒の目は輝いています。クラス・クラブ活動・寮生活・留学など、それぞれの場面で生徒たちは自分の立ち位置を見つけて、目を輝かせています。

また、留学生と帰国生が全校生徒の3割という環境は、異なる価値観を見つめ、受け入れる土壤を育みます。

明徳義塾の教職員は生徒と共に寮に住み、生活と共にしながら共に成長することをそのようこびとしています。

北米からの帰国子女・留学生が明徳義塾に新しい風をふきこんでくれることを、教職員一同心待ちにしています。



の日本語教育の充実を可能とした「日本語コース」が設置された後の事となります。「日本語コース」の設置は明徳義塾が国際化に向けた第二の船出と言っても過言ではありません。

「日本語コース」の設置以降、留学生は急激に増加しました多国籍化して行きました。2009年度はタイ、ベトナム、インドネシア、中国、台湾、韓国、モンゴル、アンゴラ、セネガル、オーストラリア、カナダなど11の国と地域から短期、長期の留学生が在籍しました。

また昨年度は、日本語を母語とはするものの、漢字など読み書きに不安のある日本人海外子女を対象としたサマースクールを開催するなど、第2言語としての日本語教育に留まることなく、母語としての日本語教育など多様な国内外のニーズに応えるべく学内の体制を再構築しています。

さて、いよいよ今年は北米に本格的に上陸することとなりました。帰国子女の受け入れについても、より柔軟性を持たせた提案を行ってゆきます。その中には北米の現地校に在学している間に1年だけ明徳に留学し、その間に明徳義塾で学んだ単位を現地校で認定してもらう仕組みも提案させて頂きます。

明徳義塾は新たな船出の時を、今年迎えます。

### 明徳義塾中学校・高等学校

〒785-0195 高知県須崎市浦ノ内下中山160

TEL : 088-856-1211 (代) FAX : 088-856-3214

HP : [www.meitoku-gijuku.ed.jp](http://www.meitoku-gijuku.ed.jp) E-mail : [info@meitoku-gijuku.ed.jp](mailto:info@meitoku-gijuku.ed.jp)



北米の日本人中学生・高校生向けのサマースクールと一年留学(?)の明徳義塾の提案です。

ここで紹介されているように、伝統のある、授業・クラブ・スポーツ・留学生・寮生活と特徴の多い学校です。その特徴を生かして、海外の中高生のニーズに対応したプログラムを始められます。

このコラムで、それらのプログラムの具体的な内容と、北米の子ども達への意義を紹介してもらいましょう。高橋先生、次回も、よろしく！